

東京都健康長寿医療センターによるAI等を活用した認知症研究

事業の意義

- ◆ 「認知症施策推進大綱」では、「共生」と「予防」を車の両輪として施策を推進
- ◆ 世界中でAI、IoT、ビッグデータ等の新技術の社会実装が進展

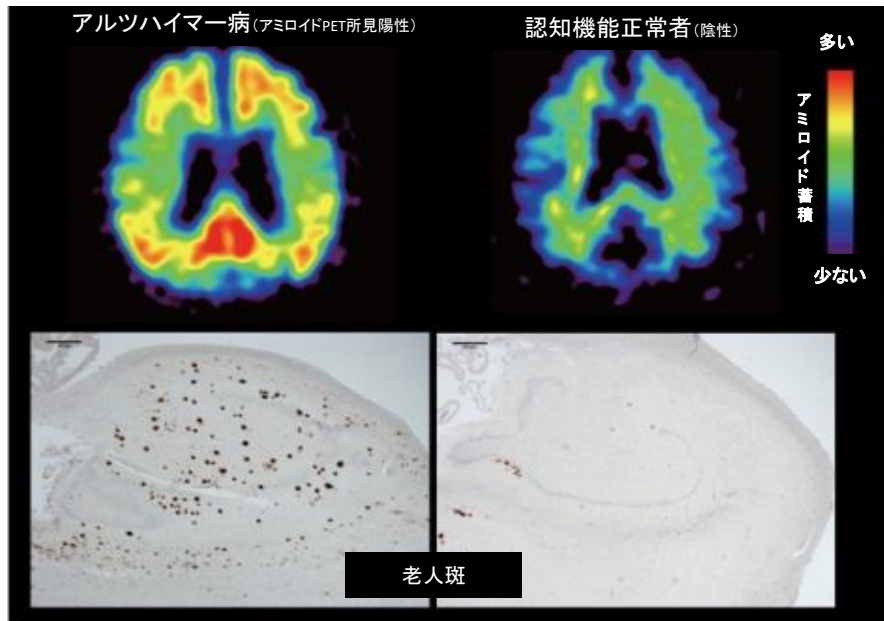
⇒ 認知症と共生していくことができる環境の整備とあわせて、東京都健康長寿医療センターがこれまで培った膨大な**臨床・研究に係るビッグデータを活用して、AI等を駆使した新たな認知症予防の取組**を推進
 (事業期間:5年《令和2年度～令和6年度》、令和2年度見積額:1,000百万円)

事業の概要

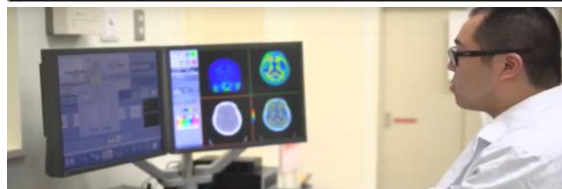
東京都健康長寿医療センター

※高齢者医学・高齢者福祉に係る研究所を併設 (旧老人総合研究所)

アミロイドPET(11C Pittsburgh Compound B)実証研究



膨大な臨床・研究に関するデータの蓄積



事業	内容
データベース構築	<p>◆ センターが保有する画像・病理データ、診療情報等を統合し、認知症等の研究に活用できるデータベースを構築し、認知症研究の基盤を確立。新たな治療法の開発や創薬に取り組む大学や民間企業を支援</p> <p>オープンに活用できる国際基準のDBを構築</p>
AI画像診断システム構築	<p>◆ PET、MRI等の画像や鑑別方法をAIに学習させ、医師の診断を補助するAI画像診断システムを構築し、確定診断をより早期に、より確実に行うことで、認知症医療・ケアの質の向上を実現</p>
認知症リスクチャート作成	<p>◆ 既存の研究データを活用して、生活習慣や病歴等が高齢者の認知機能の変化に果たす役割を分析・解明して認知症リスクチャートを作成し、認知症に対する予防的介入の確立・普及を目指す</p>